No.4

実施項目	誰もが力になる地域をつくる
実施内容	高齢の方や障がいのある方などは”要援護者”と言われ、支援を受ける側と捉えられがちですが、一人ひとりにその人にしかない強みがあります。支える側、支えられる側という一方向の関係ではなく、誰もが役割をもって自分の力を地域で活かせるよう、以下の取り組みを行います。 福祉教育への当事者講師の協力 高齢の方、障がいのある方が学校や地域で当事者講師となり福祉教育へ協力していただく働きかけをします。 高齢者・障がい者のボランティア・地域活動推進 何らかの支援を受けている人も、支える側として地域で活躍できる仕組みをつくります。 未就学児の親同士のネットワークを強化する 子育てサロン等へ呼びかけて、地域で若い力を活かす機会をつくります。

年度別進行状況

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
福祉教育への当事者講師の協力	・学校への打診	・当事者講師の発掘、当事者講師向け研修実施	→	→	→
高齢者・障がい者のボランティア・地域活動推進	・各施設の地域での活動を把握 ・ボランティアセンターに寄せられるニーズの把握・整理	・ボランティア登録者の把握 ・はつらつクラブ等でボランティア活動の紹介、活動促進	・町内単位で、ボランティア活動ができそうな方を把握（民生委員等へ個別に聞き取り）	・ボランティア活動へつなげる	→
未就学児の親同士のネットワークを活かす	・子育てサロン聞き取り調査	・子育てサロンから生まれたボランティアグループへインタビュー。 ・広報誌で活動紹介	・子育て交流会などで地域活動紹介	→	・学区で地域活動に参加する若い世代が増えることを目指す ・親子で参加できるボランティア活動の機会提供

関連する実施項目	No. 3　困りごとを解決する仕組み No. 9　ボランティアマップ（仮称）の作成・情報発信方法の見直し No.11　障がい児・者等が参加できるイベントの推進 No.12　地域団体と福祉施設の交流
協力・関係機関	学校、サロン、ボランティアグループ、はつらつクラブ、生涯学習推進センター、みなみ子育てネット